

はじめに

早いもので、東京大学が SPring-8 に長尺アンジュレータビームラインを建設しようとしてから 5 年近くたちました。検討ワーキンググループが 2006 年にはじまり、東京大学放射光連携研究機構が発足後、2007 年度から SPring-8 にビームライン BL07LSU の建設が始まり、昨年の 2010 年度に、ついに完成の運びとなりました。まだ、アンジュレータや回折格子等の調整が一部残っていますが、ほぼ完成をしました。また、ビームラインの完成に先立って、2009 年度に 3 つの固定実験ステーションも完成し、1 つのフリーポートと併せて、すでに全国共同利用を始めている状況です。今回のワークショップは、共同利用の S 型課題の研究進捗状況を発表する初めての研究会でした。時間分解光電子分光、ナノ光電子分光、軟 X 線発光分光、イメージング等、世界でもトップクラスのデータが早くも出つつあり、今後の研究成果が本当に楽しみです。

また、本ワークショップのもう 1 つの目的は、PF に筑波分室のビームラインの更新を検討するために、日本における真空紫外・低エネルギーの軟 X 線アンジュレータとして活躍している HiSOR、UVSOR、PFBL2, 16, 18 のアンジュレータビームラインの現状を各施設、ユーザーの方にお話しいただきました。

最後に、各地の放射光施設で展開されている真空紫外領域・軟 X 線アンジュレータ放射光を利用する物性研究の紹介と大きな発展が期待される実験手法、物質科学の新しい分野の開拓につながる研究課題が議論されました。タイトなスケジュールにも関わらず、世話人が予想していたよりもはるかに多くの方々が参加され、活発な議論がなされました。

本冊子は、ワークショップで講演された方々が使用されたスライドからなる報告書です。今後の議論に大いに活用していただきたく思います。

東京大学物性研究所 辛 埴、柿崎明人、松田 巖
(ISSP ワークショップ世話人)